

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-500 改3
提出年月日	平成30年9月25日

日本原子力発電株式会社
東海第二発電所 工事計画審査資料
放射性廃棄物の廃棄施設
気体、液体又は固体廃棄物処理設備
液体廃棄物処理系
(再生廃液処理系)

(本文)

放射性廃棄物の廃棄施設

2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備

2.2 液体廃棄物処理系

2.2.3 再生廃液処理系

(1) 熱交換器

a. 廃液濃縮器加熱器

(4) 容器

a. 廃液中和タンク

b. 廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプルタンク

(8) ろ過装置

a. 廃液濃縮器

(10) 主配管

2.2.3 再生廃液処理系

- (1) 熱交換器の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力 (管側及び胴側の別に記載すること。), 最高使用温度 (管側及び胴側の別に記載すること。), 伝熱面積, 主要寸法, 材料及び個数

			変更前	変更後	
名 称			廃液濃縮器加熱器*1		
種 類	—		たて置直管式*2		
容 量 (設 計 熱 交 換 量) *3		MW/個	<input type="text"/>	(4.88*4, *6)	
管 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	0.34*18		
	最 高 使 用 温 度	℃	149		
胴 側	最 高 使 用 圧 力	MPa	0.34*6		
	最 高 使 用 温 度	℃	149		
伝 熱 面 積		m ² /個	<input type="text"/>	(95.4*4)	
主 要 寸 法	管 側	胴 内 径*7	mm	901.7*4	
		胴 板 厚 さ*8	mm	<input type="text"/>	(6.35*4)
		鏡 板 厚 さ	mm	<input type="text"/>	(6.35*4, *9)
		鏡板の形状に係る寸法	mm	914.4*4, *9 (鏡板中央部内半径)	
				54.9*4, *9 (鏡板隅の丸み半径)	
		平 板 厚 さ	mm	<input type="text"/>	(38.1*4, *9)
		リサイクル入口管台外径	mm	406.4*4, *11	
		リサイクル入口管台厚さ	mm	<input type="text"/>	(6.35*4, *11)
		リサイクル出口管台外径	mm	323.85*4, *11	
		リサイクル出口管台厚さ	mm	<input type="text"/>	(6.35*4, *11)
		フランジ厚さ (上部)	mm	<input type="text"/>	(50.8*4, *9)
フランジ厚さ (下部)	mm	<input type="text"/>	(51*4, *10)		

変更なし

(続き)

				変更前	変更後
主要寸法	胴側	胴内径	mm	889.0 ^{*4}	変更なし
		胴板厚さ ^{*12}	mm	<input type="text"/> (12.7 ^{*4})	
	管板厚さ	mm	<input type="text"/> (50.8 ^{*4})		
	伝熱管外径	mm	50.8 ^{*4}		
	伝熱管厚さ	mm	<input type="text"/> (1.24 ^{*4})		
	高さ ^{*13}	mm	6225.5 ^{*4, *14}		
材料	管側	胴板 ^{*15}	—	SUS316L相当材 <input type="text"/> 及びSUS316L ^{*16}	変更なし
		鏡板	—	SUS316L ^{*10}	
		平板	—	SB49相当材 <input type="text"/> ^{*9}	
		フランジ（上部）	—	SB49相当材 <input type="text"/> ^{*10}	
		フランジ（下部）	—	SM490A ^{*10}	
	胴側	胴板 ^{*5}	—	SB35相当材 <input type="text"/>	
	管	板	—	SUS316L相当材 <input type="text"/>	
	伝熱管	—	—	SUS316LTB相当材 <input type="text"/> 及びSUS316LTB ^{*17}	
個数	—	—	2		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器，加熱器」と記載。
 *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形固定管板式（二脚支持）」と記載。
 *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「伝熱負荷」と記載。
 *4：公称値を示す。
 *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
 *6：S I 単位に換算したもの。
 *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴 内径」と記載。
 *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴 厚さ」と記載。
 *9：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和50年3月28日付け50資庁第1524号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-3 液体固体廃棄

物処理系機器・配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-3-2 廃液濃縮器加熱器」による。

- * 10 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- * 11 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月11日付け建建発第144号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-3 液体・固体廃棄物処理系機器・配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-3-2 廃液濃縮器加熱器」による。
- * 12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴 厚さ」と記載。
- * 13 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。
- * 14 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、水室底部から上部フランジまでの高さである「6174.7」と記載。記載内容は、設計図書による。
- * 15 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴」と記載。
- * 16 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS316L相当材 」と記載。記載内容は、設計図書による。
- * 17 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS316LTB相当材 」と記載。記載内容は、設計図書による。
- * 18 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm²G~760 mmHg真空」と記載。記載内容は、正圧側をS I単位に換算したもの。

(4) 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

		変更前	変更後		
名 称		廃液中和タンク			
種 類	—	たて置円筒形*1			
容 量	m ³ /個	<input type="text"/> (68.2*3)	変更なし		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*4			
最 高 使 用 温 度	℃	100			
主 要 寸 法	胴 内 径*5	mm		3400*3	
	胴 板 厚 さ*6	mm		<input type="text"/> (8*3)	
	鏡 板 厚 さ*8	mm		<input type="text"/> (12*3)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm		3400*3, *9 (鏡板中央部内半径)	
				340*3, *9 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm		4*3, *10	
	出 口 管 台 外 径	mm		114.3*3, *7	
	出 口 管 台 厚 さ	mm		<input type="text"/> (6.0*3, *7)	
	入 口 管 台 外 径	mm		165.2*3, *11	
	入 口 管 台 厚 さ	mm		7.1*3, *11	
高 さ	mm	8476*3, *12			
材 料	胴 板*13	—		SUS316L	
	鏡 板	—	SUS316L		
個 数	—	2			
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	—		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

*2：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ 計算書および説明書」による。

*3：公称値を示す。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

- *7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-4 廃液中和タンク」による。
- *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
- *9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年4月25日付け建建発第14号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-4 廃液中和タンク」による。
- *10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-11図 廃液中和タンク構造図」による。
- *11：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7800」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-11図 廃液中和タンク構造図」による。
- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変更前	変更後
名 称			廃棄物処理建屋高電導度 ドレンサンプタンク	
種 類		—	たて置円筒形	
容 量		m ³ /個	□ (8.2 ^{*1})	
最 高 使 用 圧 力		MPa	静水頭	
最 高 使 用 温 度		℃	65	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1700 ^{*1}	
	胴 板 厚 さ	mm	□ (10.0 ^{*1})	
	鏡 板 厚 さ	mm	□ (10.0 ^{*1})	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	1700.0 ^{*1, *2} (鏡板中央部内半径)	
			170.0 ^{*1, *2} (鏡板隅の丸み半径)	
	オ ー バ フ ロー 入 口 管 台 外 径	mm	165.2 ^{*1, *2}	
	オ ー バ フ ロー 入 口 管 台 厚 さ	mm	□ (7.1 ^{*1, *2})	
高 さ ^{*3}	mm	3740 ^{*1, *4}		
材 料	胴 板	—	SUS316L	
	鏡 板	—	SUS316L	
個 数		—	1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法 ^{*5}		—	液位高によるポンプ1台目 自動起動回路 液位高高によるポンプ2台目 自動起動回路	

変更なし

注記 *1：公称値を示す。

*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付書類「V-2-2-1-3 再生廃液処理系の強度計算書」のうち、「V-2-2-1-3-(1) 廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプタンク」による。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には、脚からタンク上端部までの高さである「3810」と記載。記載内容は、設計図書による。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「制御方法」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(8) ろ過装置の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料及び個数

		変更前	変更後	
名 称		廃液濃縮器		
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量*2	m ³ /h/個	<input type="text" value=""/>	(6.8*3)	
最 高 使 用 圧 力	MPa	0.34*4		
最 高 使 用 温 度	℃	105		
主 要 寸 法	胴 内 径*5	mm	2400*3	
	胴 板 厚 さ*6	mm	<input type="text" value=""/> (10*3)	
	鏡 板 厚 さ*13	mm	<input type="text" value=""/> (10*3)	
	円すい形鏡板厚さ*13	mm	<input type="text" value=""/> (10*3)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	2400*3, *7 (鏡板中央部内半径)	
			240*3, *7 (鏡板隅の丸み半径)	
	円すい形鏡板の形状に係る寸法	mm	240*3, *7 (すその丸み半径)	
	リサイクル入口管台外径	mm	318.5*3, *7	
	リサイクル入口管台厚さ	mm	<input type="text" value=""/>	(10.3*3, *7)
	リサイクル出口管台外径	mm	508*3, *7	
	リサイクル出口管台厚さ	mm	<input type="text" value=""/>	(10*3, *7)
	蒸気出口管台外径	mm	508*3, *7	
	蒸気出口管台厚さ	mm	<input type="text" value=""/>	(10*3, *7)
	胴フランジ厚さ	mm	<input type="text" value=""/>	(82*3, *7)
高 さ	mm	5402.2*3, *9		
材 料	胴 板*10	—	SUS316L	
	鏡 板*11	—	<input type="text" value=""/> SUS316L相当材 *12	
	円すい形鏡板*11	—	SUS316L *12	
	胴 フ ラ ン ジ	—	SF45*7	
個 数	—	2		





変更なし

- 注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。
- *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「処理流量」と記載。
- *3：公称値を示す。
- *4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm²G～760 mmHg真空」と記載。記載内容は、正圧側をS I単位に換算したもの。
- *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
- *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
- *7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年5月24日付け51資庁第1613号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-3 液体固体廃棄物処理系機器・配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-3-1 廃液濃縮器」による。
- *8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、リサイクル出口管台から上部鏡板までの高さである「5551.2」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
- *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板」と記載。
- *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS316L相当材 および SUS316L」と記載。
- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。





(10) 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料

変 更 前						変 更 後											
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料						
廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ A ～ 廃液中和タンク入口管合流点	1.03*2	65	60.5	3.9*1	SUS316LTP	再生 廃液 処理系	再生 廃液 処理系	変更なし									
			48.6	3.7*1	SUS316LTP												
			76.3	5.2*1	SUS316LTP												
			76.3	5.2*1	SUS316TP												
廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ B ～ 廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ A 出口管合流点	1.03*2	65	60.5	3.9*1	SUS316LTP							変更なし					
			48.6	3.7*1	SUS316LTP												
*3 廃棄物処理棟 高電導度ドレンサンプポンプ ～ 廃液中和タンク入口管合流点	1.03*2	65	48.6	3.7*1	SUS316TP							変更なし					
			76.3	3.5*1	SUS316TP												
*4 廃液中和タンク入口管 ～ 廃液中和タンク	1.03*2	65	165.2	7.1*1	SUS316TP							変更なし					
*5 廃液中和タンク ～ 廃液濃縮器供給ポンプ	1.03*2	65	114.3	6.0*1	SUS316TP							変更なし					
			60.5	3.9*1	SUS316TP												
			48.6	3.7*1	SUS316TP												
*6 廃液濃縮器供給ポンプ ～ 弁 G13-F1612A, B	1.03*2	65	48.6	3.7*1	SUS316TP	変更なし											

(続き)

変更前						変更後					
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
*7 弁 G13-F1612A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A 吸込管合流点	1.03*2	65	48.6	3.7*1	SUS316TP	変更なし					
	1.03*20	65	48.6	3.7*1	SUS316TP						
		105	48.6	3.7*1	SUS316LTP						
*8 弁 G13-F1612B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B 吸込管合流点	1.03*2	65	48.6	3.7*1	SUS316TP	変更なし					
	1.03*20	65	48.6	3.7*1	SUS316TP						
		105	48.6	3.7*1	SUS316LTP						
*9 廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A	0.34*21	105	508.0	 (6.5*1)	SUS316LTP	変更なし					
*10 廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B	0.34*21	105	508.0	 (6.5*1)	SUS316LTP	変更なし					
*11 廃液濃縮器循環ポンプ A ～ 廃液濃縮器加熱器 A	0.34*21	105	406.4	 (6.5*1)	SUS316LTP	変更なし					
*12 廃液濃縮器循環ポンプ B ～ 廃液濃縮器加熱器 B	0.34*21	105	406.4	 (6.5*1)	SUS316LTP	変更なし					

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
再生 廃液 処理系	廃液濃縮器加熱器 A ～ 廃液濃縮器 A	0.34*21	105	318.5	 (6.5*1)	SUS316LTP	変更なし					
	廃液濃縮器加熱器 B ～ 廃液濃縮器 B	0.34*21	105	318.5	 (6.5*1)	SUS316LTP	変更なし					
	*13 廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器復水器 A	0.06*22	105	508.0	 (6.5*1)	SUS304TP	変更なし					
	*14 廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器復水器 B	0.06*22	105	508.0	 (6.5*1)	SUS304TP	変更なし					
	*15 廃液濃縮器復水器 A ～ 凝縮水収集タンク	1.03*20	65	89.1	4.0*1	SUS304TP	変更なし					
				76.3	3.5*1	SUS304TP						
	*16 廃液濃縮器復水器 B ～ 凝縮水収集タンク	1.03*20	65	89.1	4.0*1	SUS304TP	変更なし					
				76.3	3.5*1	SUS304TP						
							再生 廃液 処理系					

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
再生 廃液 処理系	*17 廃液濃縮器循環ポンプ ～ 濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ合流点	1.03*20	105	48.6	3.7*1	SUS316LTP	再生 廃液 処理系	変更なし				
				60.5	3.9*1	SUS316LTP						
	*18 濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ ～ 濃縮廃液貯蔵タンク	1.03*2	100	60.5	3.9*1	SUS316LTP						変更なし
				60.5	3.9*1	SUS316LTP						

注記 *1：公称値を示す。

*2：S I 単位に換算したもの。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃棄物処理棟高電導度ドレンサンプポンプ“A”“B”吐出管（高電導度ドレンサンプポンプより廃液中和タンク“A”“B”入口管まで）」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液中和タンク“A”“B”入口管」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“A”“B”吸込管（廃液中和タンク“A”“B”より廃液濃縮器供給ポンプまで）」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“A”“B”吐出管（廃液濃縮器供給ポンプ“A”“B”より出口弁まで）」と記載。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“A”吐出管（廃液濃縮器供給ポンプ“A”出口弁より廃液濃縮器循環ポンプ“A”吸込管まで）」と記載。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“B”吐出管（廃液濃縮器供給ポンプ“B”出口弁より廃液濃縮器循環ポンプ“B”吸込管まで）」と記載。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“A”吸込管（廃液濃縮器“A”より廃液濃縮器循環ポンプ“A”まで）」と記載。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“B”吸込管（廃液濃縮器“B”より廃液濃縮器循環ポンプ“B”まで）」と記載。

*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“A”吐出管（廃液濃縮器循環ポンプ“A”より廃液濃縮器加熱器“A”まで）」と記載。

*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“B”吐出管（廃液濃縮器循環ポンプ“B”より廃液濃縮器加熱器“B”まで）」と記載。

*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器“A”出口管（廃液濃縮器“A”より廃液濃縮器復水器“A”まで）」と記載。

*14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器“B”出口管（廃液濃縮器“B”より廃液濃縮器復水器“B”まで）」と記載。

*15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器復水器“A”出口管（廃液濃縮器復水器“A”より凝縮水収集タンクまで）」と記載。

*16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器復水器“B”出口管（廃液濃縮器復水器“B”より凝縮水収集タンクまで）」と記載。

*17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ A, B より濃縮廃液貯蔵タンク A, B, C ヘッダまで」と記載。

*18：記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液貯蔵タンク A, B, C ヘッダより濃縮廃液貯蔵タンク A, B, C まで」と記載。

*19：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 11 月 12 日付け 51 資庁第 12241 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-1-5 液体固体廃棄物処理系配管の規格計算書（Ⅲ-1-3-5）」による。

*20：記載の適正化を行う。既工事計画書には「10.6 kg/cm²～760 mmHg 真空」と記載。記載内容は、正圧側を S I 単位に換算したもの。

*21：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm²～760 mmHg 真空」と記載。記載内容は、正圧側を S I 単位に換算したもの。

*22：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.7 kg/cm²～760 mmHg 真空」と記載。記載内容は、正圧側を S I 単位に換算したもの。

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (16/31)

		変 更 前					変 更 後					
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 再生廃液処理系	熱交換器	廃液濃縮器加熱器	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-	-	-
		容器	廃液中和タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-		
			廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンブタンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-		
		ろ過装置	廃液濃縮器	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-		
		主配管	廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンブポンプA～廃液中和タンク入口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-		
			廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンブポンプB～廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンブポンプA出口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-		
			廃棄物処理棟高電導度ドレンサンブポンプ～廃液中和タンク入口管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-		
			廃液中和タンク入口管～廃液中和タンク	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-		
			廃液中和タンク～廃液濃縮器供給ポンプ	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-		
			廃液濃縮器供給ポンプ～弁G13-F1612A, B	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-		
			弁G13-F1612A～廃液濃縮器循環ポンプA吸込管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-		
			弁G13-F1612B～廃液濃縮器循環ポンプB吸込管合流点	B-1	クラス3	-	-	変更なし	-	-		

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (17/31)

		変 更 前				変 更 後						
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体、液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系 再生廃液処理系	主配管	廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—
			廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—
			廃液濃縮器循環ポンプ A ～ 廃液濃縮器加熱器 A	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—
			廃液濃縮器循環ポンプ B ～ 廃液濃縮器加熱器 B	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—
			廃液濃縮器加熱器 A ～ 廃液濃縮器 A	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—
			廃液濃縮器加熱器 B ～ 廃液濃縮器 B	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—
			廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器復水器 A	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—
			廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器復水器 B	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—
			廃液濃縮器復水器 A ～ 凝縮水収集タンク	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—
			廃液濃縮器復水器 B ～ 凝縮水収集タンク	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—
			廃液濃縮器循環ポンプ ～ 濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ合流点	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—
			濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ ～ 濃縮廃液貯蔵タンク	B-1	クラス 3		—	変更なし		—		—

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (31/31)

			変 更 前				変 更 後					
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
堰その他の設備	-	原子炉格納容器本体外に設置される流体状の放射性廃棄物を内包する容器からの流体状の放射性廃棄物の施設外への漏えいを防止するために施設する堰	キヤスク搬出入用出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			サイトバンカトラックエリア出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			廃棄物処理建屋機器搬出入用出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			雑固体ドラム搬出入用出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			ドラム搬入室出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			廃棄物処理建屋出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			焼却設備機器搬出入用出入口	B	-	-	-	変更なし	-	-	-	-
			連絡配管路出入口 (中廊下(二階))	B	-	-	-	撤去	-	-	-	-
			サイトバンカ非常用出入口	B	-	-	-	撤去	-	-	-	-
			連絡配管路出入口 (廃棄物処理棟ハッチ室(二階))	B	-	-	-	撤去	-	-	-	-

注記 *1: 表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針、適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。

*2: 撤去対象設備であるため記載を削除する。